

## 2014年度町田市スポーツ推進審議会 議事要旨

<b>日時</b>	2015年3月23日(月) 18時30分から20時30分
<b>場所</b>	町田市役所 10階 会議室10-2
<b>出席者</b>	川崎 登志喜 委員(会長) 玉川大学教育学部教授 渡辺 剛 委員(職務代理) 国士舘大学体育学部教授 山本 正実 委員 町田市体育協会理事長 市川 健一 委員 東京都障害者スポーツ協会副会長 守屋 実 委員 NPO法人アスレチッククラブ町田代表理事 佐藤 正志 委員 町田商工会議所専務理事 柴田 智 委員 社会福祉法人悠々会・ケアフルクラブ悠々園施設長 菊盛 由利子 委員 市民委員 新宅 雅也 委員 市民委員
<b>欠席者</b>	三ツ谷 洋子 委員 法政大学スポーツ健康学部教授 比良田 健一 委員 堺中学校校長
<b>事務局</b>	文化スポーツ振興部長 笠原 道弘 文化スポーツ振興部スポーツ振興課長 能條 敏明 文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長 高梨 光之 文化スポーツ振興部スポーツ振興課 河本、笹川
<b>傍聴者</b>	なし
<b>議事</b>	1 開会 2 報告 (1) スポーツ推進計画策定及びその後の経過について (2) スポーツ推進計画アクションプランについて (3) スポーツに関する市民意識調査アンケートの実施結果について 3 議題 (1) スポーツ推進計画2014年度進捗状況について (2) スポーツ推進計画アクションプラン2014年度事業実施状況について 4 事務局から 5 閉会
<b>資料</b>	次第 資料1 町田市スポーツ推進計画策定及びその後の経過 資料2 町田市スポーツ推進計画アクションプラン 資料3 スポーツに関する市民意識調査アンケート実施結果 資料4 町田市スポーツ推進計画2014年度進捗状況 資料5 町田市スポーツ推進計画アクションプラン2014年度事業実施状況

## 1 開会

〔事務局から資料の確認〕

## 2 報告

### (1) スポーツ推進計画策定及びその後の経過について

〔事務局が資料1を説明〕

→質問は特になし

### (2) スポーツ推進計画アクションプランについて

〔事務局が資料2を説明〕

#### (新宅委員)

- ・オリンピックのキャンプ地誘致について種目等を吟味しているか。

#### (事務局)

- ・陸上競技や総合体育館、室内プール等を利用して競技やトレーニングができるものを考えている。具体的な招致する競技、国は決まっていない。

#### (川崎会長)

- ・アクションプラン5-2「第二次野津田公園整備基本計画推進事業」について、現在F C町田ゼルビアの試合等で課題となっている駐車場の整備はどのような計画になっているのか。

#### (事務局)

- ・「第二次野津田公園整備基本計画」では、現在バスの折り返し地点として利用している野津田公園中央第2駐車場を来場者のためのメイン入口とする計画となっており、駐車場としての利用ができなくなる。その代わりに別の場所を公園用地として拡張し、普段は「多目的広場」、大規模なイベント時には「臨時駐車場」として利用できるように計画で位置付けている。
- ・駐車場数は、現在より若干増える程度である。大規模なイベントが行われる際に必要な駐車場数すべてをまかなうことはできない。駐車場で対応できない分については、公共交通機関でのご来場をお願いしていくことになる。

#### (市川委員)

- ・施策4「トップスポーツの環境づくり」では、東京オリンピック・パラリンピックを目指す記載があるが、オリンピックを目指す選手達の中には2016年のリオデジャネイロオリンピックを目指している選手がいる。2016年のリオデジャネイロオリンピックを踏まえての考え方が必要と考える。

(3) スポーツに関する市民意識調査アンケートの実施結果について

[事務局が資料3を説明]

**(川崎会長)**

- ・市民意識調査アンケートは、単純集計しか行っていないか。

**(事務局)**

- ・スポーツ実施率について、一部クロス集計を行っている。

[事務局から年代別のスポーツ実施率を報告]

**(川崎会長)**

- ・アンケートの公表は、今後どのようにする予定か。

**(事務局)**

- ・現在公表は考えていない。公表の方法について何かご意見があれば検討したい。

**(佐藤委員)**

- ・60代のうち散歩している方がどのくらいの割合なのか、20代はどのようなスポーツを行っているのか等詳細について知りたいところである。

**(川崎会長)**

- ・どんな方が市のスポーツ施設を使っているのか。スポーツ施設の近くに住んでいる方がスポーツ施設を利用している等、クロス集計があれば、課題が見えてくるのではないか。

### 3 議題

(1) スポーツ推進計画2014年度進捗状況について

[事務局が資料4を説明]

**(川崎会長)**

- ・地域スポーツクラブの進捗の詳細について教えてほしい。

**(事務局)**

- ・新規の1団体は、「NPO法人 J. V I C」で、陸上の事業を主に行っている団体である。総合体育館にて今年度は4競技のスポーツ教室事業を実施した。

**(川崎会長)**

- ・町田市で地域スポーツクラブ設立をカウントする方法はどうしているか。

**(事務局)**

- ・町田市地域スポーツクラブ支援実施要綱の要件を満たした上で、東京都広域スポーツセンターが運営する東京都地域スポーツクラブサポートネットに登録された時点で、町田市にスポーツクラブが設立したと認識し、カウントする。東京都地域スポーツクラブサポートネットに登録するには、町田市から東京都に情報を提供する必要がある。現実的には、町田市が東京都に情報を送る段階でスポーツクラブが設立したと判断している。

**(守屋委員)**

- ・地域スポーツクラブの活動を長期で続けていくには、多年齢の方が交流できる活動拠点（クラブハウス等）が必要。
- ・廃校等の活用をすることを検討してはどうか。

(2) スポーツ推進計画アクションプラン2014年度事業実施状況について

**(川崎会長)**

- ・アクションプラン「5-1 スポーツツーリズム実施事業」について、観戦ツアーはどのようなツアーを実施したのか。

**(事務局)**

- ・ジャパンラグビートップリーグのキャノンイーグルス対東芝ブレイブルーパス戦にて、町田市観光コンベンション協会の主催でバスツアーを実施した。内容は、町田駅から陸上競技場までの往復バス代と試合のチケット代込みのパッケージツアーであった。
- ・バスツアーには、30名程度が参加した。

**(佐藤委員)**

- ・「2-9 地域スポーツクラブ設立・運営推進事業」について地域スポーツクラブへの運営補助は、市からの運営補助が出ているか。
- ・地域スポーツクラブの財政面の運営はどのようになっているのか。

**(事務局)**

- ・地域スポーツクラブ設立の準備段階時に市から支援を行っている。また、地域クラブの中で事業運営する際の支援と、クラブマネージャー等の人件費の支援がある。
- ・市からの支援以外では、totoの補助金がある。
- ・補助金を受けながら、会員からの会費で運営している。

**(佐藤委員)**

- ・補助金の依存主義になっていないか。

**(守屋委員)**

- ・totoの地域スポーツクラブの事業運営に関する支援は3年、クラブマネージャーの支援は5年と補助期間が決まっている。地域スポーツクラブは補助の出る間に、会費のみで運営できるようにしていけるようにする。

**(川崎会長)**

- ・補助金に頼らないと運営できない地域スポーツクラブはなくなっていく。地域スポーツクラブのうち約9%は1,000名以上の会員で1,000万円規模の運営体制で、そのようなクラブは運営がうまくいっている。

**(川崎会長)**

- ・地域スポーツクラブについて町田市の予算はどの程度あるのか。

**(事務局)**

- ・1団体につき、準備段階時の支援に15万円、事業運営支援に30万円、クラブマネージャー等の支援に250万円の予算がある。

**(川崎会長)**

- ・新たに独自に地域スポーツクラブ設立準備している団体とはどのような団体か。

**(事務局)**

- ・学校開放運営委員会の中で、学校とNPO団体を含む地域利用団体が一体となって、学校開放運営委員会を地域スポーツクラブにしようと動いている小学校が2校ある。

## 次第2、次第3を踏まえた意見

### (山本委員)

- ・大規模大会が開催された際のスポーツ施設周辺の駐車場や道路混雑の問題で付近の住民からの苦情が多くある。全国大会を誘致する際には、説明会等を開催し、総合体育館や陸上競技場付近の住民の理解を得ることが大切である。
- ・市民ニーズにあった大会を誘致することが必要である。

### (守屋委員)

- ・アクションプランの推進のためには、市役所全体で共通認識を持つことが大切である。
- ・大規模大会を招致し、市内で宿泊してもらう場合、ホテルに駐車スペースがないため、大型バスが駐車できる場所の確保が必要である。
- ・市内のホテルに、夕食付の宿泊ができる施設があると選手達にとってはよい場合がある。キャンプ地招致のためにも町全体で大規模大会の参加者を受け入れる体制が必要である。

### (柴田委員)

- ・スポーツに関する市民意識調査アンケートの回収率がもう少し高くなればより実状に近くなるのではないか。
- ・スポーツをほとんど行わない割合が3割あるが、その部分が課題である。その人たちに対してスポーツを「する」「観る」「支える」の啓発活動を行っていく必要があると感じた。

### (新宅委員)

- ・一般の方のウォーキングやジョギングの指導の活動を行っていて感じるのだが、スポーツを通じた仲間作りのための活動場所の整備が進めばよいと思う。
- ・お父さんが休日を利用し運動する機会を作るきっかけにもなるため、「家族」でスポーツするという考えも必要であると思う。

### (菊盛委員)

- ・アクセス等の問題でスポーツ施設のトレーニングルームの稼働率が低いように思う。歩いて行けるとところに地域スポーツクラブの整備が進めば、高齢者の方も通いやすくてよいと思う。

### (市川委員)

- ・アクションプランの「障がい児スポーツ教室事業」について、学校を卒業し、成人した後に教えてもらえる場所がないという問題がある。現在障がい児スポーツ教室の利用登録者は、100名を超えているが、そのうち3割は、成人であり、成人の方が障がい児スポーツ教室に通っているという現状である。年齢に応じた指導ができる場所と指導者が必要である。
- ・東京都障害者スポーツ協会の障害者スポーツ指導員登録（初級・中級）は2,000名超であるが、稼働率は約3割である。資格を取得してもどう活用していいかわからないという現状のため、スポーツ推進委員が地域とのつなぎ役を担うことができたらと思う。
- ・近年、特別支援学校では医療的ケアが必要な生徒が増えたため、衛生管理が厳しい現状である。施設・物品の管理体制が整わなければ、特別支援学校の学校開放は難しいと感じる。
- ・2014年度アクションプラン事業実施状況「4-8障がい者のスポーツ大会誘致」について。総合体育館で2014年8月に開催された「全国車椅子バスケットボール大学選手権大会」はバリアフリー・ノーマライゼーションを主張とする、障がいのない方も車椅子に乗って

行うバスケットボールの大会であり、いわゆる身体に障がいのある方の車椅子バスケットボールとは違うものである。間違っただけで捉えられる可能性があるため、書き方を変えたほうがよいのでは。

**(事務局)**

- ・「4－8障がい者のスポーツ大会誘致」の書き方は再度確認し、必要に応じて修正する。

**(佐藤委員)**

- ・スポーツに関する市民意識調査アンケートのクロス集計の結果を男女別、年齢別に詳細を知りたい。
- ・20代から40代のスポーツに関する意識を高める取り組みを行うとよいのではないかと思う。
- ・子どものスポーツ推進については、食育に関する取り組みにもっと力を入れるべきだと思う。

**(渡辺委員)**

- ・スポーツに関する市民意識調査アンケートの結果から、男性30代から50代の運動実施率が低いと想定できる。生活習慣病の予防や医療費削減のためにも、30代から50代の男性の運動習慣をつけることが大きな課題である。

**(川崎会長)**

- ・スポーツに関する市民意識調査アンケートについて、市のスポーツ施設を利用している割合18.5%を人口規模が同程度の他市と比較してみる必要があると思う。他市に比べ、施設が不足しているかどうかの分析ができ、今後のスポーツにかかる予算を考える際の根拠にもなると思う。
- ・今後アクションプランの事業について2018年度の見直しまでにどのように事業が進むか確認していきたい。

4 事務局から

- ・来年度もスポーツ推進審議会を一回開催する予定である。
- ・スポーツ推進審議会の委員任期が2015年6月までとなる。